

浅茅野 CS 通信 **きずな**

学校と保護者と地域でつくるお便り 第5号 浅茅野小コミュニティスクール
令和2年10月30日(金)

「地域の力」「人の力」を実感

猿払村立浅茅野小学校長 荒谷 卓朗

1 「夢の世界へ」～絵画特別授業～（お絵かき教室「クローバーキッズ」Tさん）

10月9日、学芸会前、出前授業2本立て、まるで映画館にいるかのような贅沢な一日。

1本目は図工授業。稚内から絵画教室のT先生が来校され、全学年の図工の授業をご指導いただきました。日常の授業で子どもたちが取り組んでいる絵にコメントをいれながら様々な技法を活用して楽しく教えていただきました。満足のいく作品ができていく瞬間は、子どもにとって「夢の世界」への旅でした。

新しい学習指導要領になり、教科書の内容が刷新されました。どんな教材でも、絵が好きになる、造形・工作が好きになる、「楽しい!」「嬉しい!」「ワクワクする!」といった実感が伴わなくては、意味がありません。しかし、「作品を家にもってかえると捨てられちゃうんです…」、残念ながら、よく聴く話です。大人は整理整頓と称した自分にとって都合のよい断捨離で子供の可能性に気がつかずに見逃してしまうことがあります。

絵は、画用紙と、ペンやクレヨン・絵の具といった画材があれば、すぐに始められます。色画用紙・ハサミ・のりがあれば、工作はできます。キット教材は買わずとも、少し知恵を絞って手間をかければ、創意工夫して楽しい造形体験をできるのです。造形するときには、全神経を集中させて描写します。大げさですが、「人生をかける」瞬間です。何もない真っ白なキャンバスに、一本の線を走らせる、色をのせていく、これは「人生の大冒険」です。ハサミで紙を切るのも同じです。その旅に出るガイド役が教師の仕事です。子供が作品を持って帰ってきたときには、どんな思いでつくったのかを「うん、うん、そうなんだね・・・」と聴いてあげてほしいのです。そして、上手でなくても、「ここが素敵だね。」と良いところを見つけてあげていただきたいのです。子どもたちのワクワクは作品をみれば伝わると思います。11月7・8日、作品展にてご覧下さい。



2 「食育」～食事は「時間」と「感動」の共有～（給食センター出前授業）



2本目は食育授業。栄養教諭のK先生に、バランスのとれた食事について、わかりやすく教えていただきました。事後感想には「こまが回るような食事に気をつける。」と記されていました。食事バランスガイドの図を「こま」に見立てて、子供に感覚的に伝わる工夫をされていました。

学芸会前には給食感謝会が行われ、給食センターの職員の方が多数来校。子どもたちに声をかけながら配膳をしていただきました。子どもたちからは学芸会の取り組みを動画で紹介、感謝のメッセージを届けました。N所長からは、「今、いろんなことができなくなっている中で、思い出に残る給食を体験してもらいたかった。学芸会の成功を祈っています。」と応援していただきました。



ところで、金子耕式さんのファミリートーク <http://www.kanekokoji.jp/> をお聞きになったことはございますか？子育て相談をテーマにしたラジオ番組です。講演の折に、ステキな言葉をいただきました。

「子育てに必要なのは、時間と感動の共有です。親子そろって食事をする時間、「おいしいね。」「うん、おいしいね。」というやり取り。日々繰り返される何気ない会話が積み重なり、親子の絆、信頼関係ができる。すると子供はすくすくと育っていく。」と、心がホッとするお話しでした。

先月は地域の方が来校され、学校にあるチーズバット（製造機）で自家製チーズをつくっておられました。（本校は、一部、公民館機能も有しています。）お裾分けをいただきましたが、今まで食べたことのないまろやかな味に、「ほっぺたがおちそう！」になりました。まさに、「感動の共有」を体験した瞬間です。時が許せば、子供たちと一緒に食べられたら良かったのですが、今年は調理実習ができないので授業で稼働することなく終わりそうです。今後にもむけて、ピザ窯で「焼き芋」体験できたらと、浅茅野ファームの「さつまいも」が育っているか職員で芋掘りをしてみようかと画策しています。

地域の方の声 「浅茅野の森」の思い出

3 ペップカードに感謝！～心に残る学芸会アフタートーク集～



10/11 学芸会への事前応援・事後感想を多数いただきました。

☆号令をかける声が大きくてよかった。☆大きな声であいさつできていてかっこよかったよ♡劇では堂々と発表していたしファッションショーの衣装も素敵でした。たくさん努力して練習した姿がいつもよりかっこよく見えました。おつかれさまでした。☆みんながんばったね。楽しくみせてもらいました。☆大きな声が出ていてステキでした！よくがんばったね。とってもかっこ良かったよ！！☆みんながんばってたのしかったです。よくやったね。☆最高に面白い学芸会でした。☆楽しみにしていました。みんなで協力して、おもしろーい学芸会でしたよ。ありがとう。元気でね！☆よく頑張りました。☆学芸会、とても良かったです。ライブはサイコーだね！みんなよくがんばりました☆1、2年生 ハロウィンナイトの衣装とポーズ、みんなかっこよかった！！げきは1年生の演技力※2年生は1年生の時よりずっとうまくなっていました！！☆4、5年生 劇は環境のことをしっかり考えたいという気持ちがいっぱい伝わってきました！いろんな役、がんばりました！☆6年生 劇、おもしろかったです！それぞれが複数の役でしたが、きちんと演じ分けられていてさすが6年生！だと思いました。☆カントリーロードと情熱大陸は本当に事前からのがんばりが光っていました！全校合奏なみにすばらしい！☆ソーラン 動きも大きく、勢いと熱気が伝わってきて

元気をもらいました！☆全校合唱・合奏 総練習の何倍もよかったです。紅蓮華も大成功！みんなで一つになっていました！来年は地域の人にもみてもらいたいね…ステキな学芸会をありがとうございました！



地域から届いたペップカード(応援メッセージ)

今回、本番前の勇気づけ(ペップトーク)として、子供を「その気」にさせる取り組みにご協力いただきました。事後感想も含めて予想以上の反響に驚きました。事後の声かけがあると、やってよかった、がんばってきてよかったと思う気持ちが記憶に残ります。その積み重ねによって自己肯定感が高まり、前向きな行動が増えていきます。こうした成功体験はプラスの経験となり、将来のキャリア

形成につながっていきます。今年からはじめて「キャリアパスポート」には、学芸会までの振り返りが記されています。練習の過程で気がついたことや本番で自己成長を実感できたという内容です。担任のコメントに加え、ご家庭からも勇気づけメッセージをいただきました。

振り返りを読むと、行事で積み上げる力は確かに大きいと感じます。しかし、それ以上に大切なのは、普段の生活習慣づくりです。挨拶、返事に始まり、学習に向かう小さな取り組み(話を聴く、メモをとる、道具をそろえる…)を継続すること。その集大成が行事での大きな成長につながっています。日々の声かけ(モチベーション・トーク)、安心できる環境があるからこそ、自分と向き合って前へ進んでいける。これは子供も大人も同じだと思います。

第28代 T校長先生からメッセージをいただきました。

浅茅野の学芸会は保護者・地域の方も卒業生も大変楽しみにしている一大行事です。先生方も少人数でできる演目を最大限工夫し取り組みます。何より子どもたちの「やる気」がすごいです。浅茅野の学校行事を振り返ると「取り組むに値する価値のある課題」があり、チャレンジすることを通して子どもたちは「自分たちの可能性」を知り、またその対象を拡げていく。そういった子どもたちを見守り熱く応援する地域・保護者がある。このような「すぐれた学びの環境と循環」があります。先生方も子どもたちも改めて幸せな学校にということが伝わってきます。今回はありがとうございました。

素晴らしい学芸会の成果は、子供たちを支える環境があってこそ。保護者・地域の皆様方の様々な取り組みへのご協力に改めて心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

4 心をつなぐ小さなステキ交流～あさじのかるた日記～

放課後、低学年とチェルシーさんが校長室へ。絵が描かれた漢字カードで「馬、house」と漢字と英語の両方を読み、かるた遊びをしました。「魚は骨の形！」「これは牛の角か！」と漢字の成り立ちを共に発見し喜ぶ姿。世代や言葉を越えて国際交流もできるカルタは、人と人をつなぐ優れた日本の文化です。



浅茅野では下の句カルタが盛んに行われてきました。枚数を少なくすれば、トランプのように短時間で交流することができます。（丁度、中学年がトランプでチェルシーさんと交流したとのこと。）今後、国語で俳句・短歌を学習する際など、ペップカードに書いた感謝のメッセージや、日常の小さな喜び・発見を5・7・5の句にして、かるたをつくることを考えています。なかなか人と会えない状況の中、地域の人とのふれあい・交流する機会を保障するために、小さな交流を積み重ねていくことが大切だと考えています。そこには、あたたかい気持ちの「わ」（「輪」・「和」・「話」）が生まれます。こうしたやさしい気持ちが生まれると思わぬドラマが生まれます。



先日は、修学旅行から帰った6年生を驚かせたいと、中学年が教室の黒板一面にアニメの壁画を描き、「お帰りメッセージ」を書き入れ素敵にデザインしました。6年生は「なんか書いてある…」と不思議反応。子供の心を察知した担任団は間髪入れず「声かけ」。中学年は「制作過程の動画を見せに行こう！」とアクションを起こしました。タブレットで作った動画をみた6年生は嬉しさと同時に（やばい…）と

危機感をあらわにしたとか。お土産とともにお礼の手紙をもらって中学年は喜んでいました。デジタルとアナログ、様々なツールを使って交流場面を創りだす工夫が、子供たちの行動力・表現力となって実ってきた感じです。では、このエピソードから一句。

心うつ 壁画と言葉で 響かねば 感動ムービーで 「その気」にさせよ

5 植樹体験での出会い～エコワーカーズ&エコレンジャー協働大作戦～

10/27 環境を守る学習を発展させ、クッチャロ湖畔で植樹体験学習をする機会をいただきました。子供7人と職員3人、エコワーカーズ4人、取材1人、湖畔から車で10分以上走った山奥で森林の専門家の指導をうけて本格的な植樹を体験。「楽しいのは最初だけ、あとは大変だよ。」「木を切ってもお金にならない時代。」「木を植えるのには熱意が必要。」など、環境を守る活動を続けている大人の言葉を聴き、子供たちは何を感じたのか。調査学習と実体験をもとにした彼らの願いは、今後制作する動画に込められることでしょう。ご指導いただいた事務局長のKさんをはじめ、ご支援いただいた皆様方に感謝申し上げます。



【今月のお題】クッチャロ湖畔の森で植樹を行いました？中・高学年7名が植えた苗木は何本でしょうか。

- 1 144本
- 2 70本
- 3 14本

回答はアンケート
フォームから→



【編集後記】「地域の人々の力」を実感した10月。皆様のアイデアや声をお寄せください。⇒浅茅野小
CS事務局 TEL5-7312 FAX5-7317
asajinosho@school-sarufutsu.jp

【9月お題の答え】→栽培していない野菜は、人参、タイム。（さつまいもができました！）